

「英米文学と映画」（第6回日欧比較文化研究会、平成12年7月）

英米文学の作品は映画作品としても成功を収めている。また、文学作品としては、それほど高く評価されていなかったものが、映画が高く評価されたことにより文学作品が脚光を浴びるというねじれ現象さえも生まれている。また、原作と映画化の間で起こる翻案・改作・脚色の問題なども、作品解釈と大きくかかわることとなる。ねじれ現象の代表的な作品としてはマーガレット・ミッチェル原作の『風と共に去りぬ』とカポーティ原作『ティファニーで朝食を』を取り上げた。